



**おっさんの
チンポに負けるAK-12**



「ぐふふ、ついにこの身体を味わえる日が来たか。
この日をどれだけ待ちわびたことか。」

「まったく、一時の生理的欲求のために
ここまでの行動を起こすなんて。
人間の非合理性には本当に驚かされるわ。」

「二応確認だけど、約束を守れば本当に
指揮官の解雇を取り消してくれるんでしょうね？」

「勿論だとも。」

今日二日お前がワシの相手をしてくれるのならば、
あの男の処遇についてワシの方から口添えしてやる。」

「それを聞いて安心したわ。」

上手いこと私たちをハメたと思っっているようだけど、
それが大きな間違いであると教えてあげるわ。」

スリ

スリ

ピクッ

「クククク…そうではなくてはな。
その不遜な態度がいつまで続くか…
今から楽しみたいわい♡」

（この男、敏感なところを的確に…
確かに口だけでなくテクニックもあるみたいね。
グリフィンのスポンサーという立場を利用して
これまで自分が気に入った人形を
強引に手に入れてきたという危険人物…
普通の人形であれば
反応してしまうんだろうけど…）

くちゅ

ずち

くちゅ

ぐち

ピク

ピク

(深度演算モード…
このモード中ならば感情が抑制され、
どれほど性感を与えられようと
この男を悦ばせるような反応をすることは無い。
私がエリートであることを甘く見たようね。
せいぜい虚しく無反応の人形を
相手にするが良いわ。)

ぐちゅ

ぐちゅ

ずちゅ

ぐちゅ

ビク

「イッたようだな。
声も上げずに健気なものよ。
とはいえこの程度はまだ準備に過ぎんがな。」

（絶頂回数1…想定通りね。）

既に予想しうる展開は全てシミュレーション済み。

その全てにおいて私が反応することは無いわ。

あとは時間が過ぎるのを待つだけの

簡単なミッションね…）



「さあここからが本番だ。

こいつで思う存分犯しつくしてやるぞ！」

（大きい…。ここまでのサイズは想定外のパターンだけど…

それでも結果に影響は無いわね。

多少予測を上回ったところで、人形、しかもエリートの処理性能を人間が上回ることには無いのだから。）

ボロロンッ



「くう！ なんという心地良さ！
肉厚で褻が一枚一枚絡みつき…
これは期待以上の名器よ！」

「…やはり問題は無いわね。
多少は大きくても動きは想定範囲内。
感度の上昇値もシミュレーション通りだわ。」

ズチュ

ズ
チツ

グ
チユ

「奥に入れる度に吸い付いて、射精を促してきおって……！
思わず腰が動いてしまうわい！
これではすぐ出してしまいそうだ！」

（動きが急に激しくなって…… 感度の上昇ペースが
シミュレーションを上回っている……。
ここまで激しく動けるのは想定外ね。
このまま感度が上昇すると約10秒後に絶頂するけど……
この程度の誤差なら快感値はまだ規定値……以内……）

ハ
チュ

ズ
チュ

バ
チュ




ぬ
ぽっ

「ふいっ。この日のために
溜め込んだ分、
たっぷり出してやったわい。」

（射精を確認…多少想定外なことはあったけど、
これで終わりかしらね…）





「ぐふふ、これで終わりだと思ったか？
まだまだ楽しませてもらうぞ…
お前が負けを認めるまでな♡」

「…構わないけど。快感値は規定値以内のまま。
状況が変化する可能性は0パーセントよ。
続行は無意味と判断するわ。」

数時間後

「ガハハ!! どうした?
流石のお前もいよいよ無反応では
いられなくなってきたかな?」

「くっ...」

(快感値...規定値を...突破...)

絶頂の蓄積によるメモリ占有とオーバーフローが発生。

深度演算に使用できる空き容量が減少中...

メモリ枯渇までの時間をシミュレーション中...

先に男の体力が尽きる可能性100パーセント。

状況が変化する可能性は...引き続き0...パーセント...

まだ...大丈夫...!

ハ
チ
ユ

ア
チ

グ
チ
ユ

ズ
チ
ユ

さらに数時間後

はん

あ

ズ
チ

ズ
チ

ズ
チ

ズ
チ

ズ
チ

「良い声が聞こえてくるようになったなあ〜？
どうだ？ そろそろ負けを認める気になったか？」

「っ!! 生憎だけど…その期待には答えられないわ…
この程度で私は負けない…もの…!!」

(快感値、更に上昇… …くっ…)

快感値の上昇が止まらない…!!

徐々に深度演算モードが維持できなくなってきた…!!

一体どれだけ絶倫なのよ!! この男…!!

またさらに数時間後

あう

ひん

ビク

ビク

「あつ!! ああああああ!!
イクツ!! イクツ!!!」

「もはや反応を抑えられんようだな!?
どうした? そろそろ負けを認めるか?
素直に負けを認めるなら
今後オナホ人形として可愛がってやるぞ?」

ガク

バチ

カク

バチ

ズチ

キッ

「笑えない…冗談ね…!!
あなたみたいな人間相手に…
負けなんて認めないわ…!!」

「クク…流石ワシが目を付けた人形!
まだそんな目が出るとは。
だがそれも限界であろう。
どれ、このあたりで止めをさしてくれ…!!」

ズチッ

バチ

パチ

ズチッ



「ワシのチンポの味を刻み込まれた
お前の体は、もうワシ無しでは活動出来ん。
これでもうお前はワシのモノだ。
これからまたたっぷり可愛がってやるわ…
グフフフフ!!」



ピク
ピク

はっ

あ

ピク
ピク

ピク
ピク

グフフフ





































